

大空に翔る

平成20年3月発行
No.24

発行
(財)山形県体育協会
山形県スポーツ少年団
山形市松山2-11-30
☎(023)625-5750
印刷 (株)大風印刷

支部だより



第43回山形県スポーツ少年大会兼
平成19年度ジュニア・リーダーズスクール (村山支部)



第5回全国スポーツ少年団バレーボール
交流大会県予選会 (最上支部)



平成19年度山形県スポーツ少年団
置賜支部指導者研修会 (置賜支部)



第34回日独スポーツ少年団同時交流受入事業 (庄内支部)

いあいせい



山形県スポーツ少年団
本部長 梁瀬 吉弘

平成十九年四月より、原田薫前本部長から引き継ぎ、本部長を仰せつかった梁瀬吉弘です。皆様方のご指導、ご支援宜しくお願ひ申し上げます。

今年度の登録は、団が一、〇六二、団員が二二、八一七名、指導者が五、七八四名で、少子化の影響から未だ免れない状況でした。

本県の加入率は、前年度と平行線をたどり、小学生の加入では、全国的に極めて高い水準にあり、地域から高い信頼を得ている結果と考えます。

これも、日頃の関係者皆様の並々ならぬご尽力の賜物と、敬意と感謝を申し上げます。さて、私たちは、スポーツ活動を通しての、心身の調和の取れた発達と思い遣りや協調の心を持ち、強心な心で頑張る子ども達の育成、即ち健全育成を目指して頑張っています。

更に、スポーツ少年団活動が、子ども達の将来の活動に大きな影響を持ち本県スポーツの育成普及充実に繋がっていくものと考えます。

私たち関係者一同、このことを自覚し心を引き締め、地域や保護者の信頼を失わないよう、団員の活動に齟齬をかたさないよう、認定員の再研修も視野に入れながら、十分に研修に留意し、指導にあたらなければと強く思っています。宜しくお願ひ申し上げます。

座談会テーマ スポーツ少年団活動に期待か「J」

【参加者】
 吉野 利明 山形県中学校体育連盟副会長(県スポ少本部員)
 小川 潔 山形市小学校体育連盟副会長(県スポ少本部員)
 佐藤 俊晴 中山ソフトテニススポーツ少年団 代表指導者
 梁瀬 吉弘 山形県スポーツ少年団本部長
 志村 忠夫 [司会進行] 山形県スポーツ少年団本部員 普及委員長
 柴崎 美枝 山形県スポーツ少年団本部員 普及委員

〔志村〕近年、少子化の中で適正規模の団員確保ができず、集団として、チームとして、スポーツ少年団活動を継続していくことが困難な状況に陥っている団が増加傾向にあります。また、旧態依然のまま勝利を追い求め、回数的にも時間的にも過激な練習や活動を行っている団も存在していることを耳にしております。また、子どもの最高の教育の場である学校教育に、スポーツ活動が影響を与えていることもあるなどと言われています。

そんな中で、団員確保や正常な少年団活動のあり方、学校のスポ少に対する関わりなども大事にしていかなければ

なりません。学校の協力も仰がなければなりません。しかし、スポ少に対する関わり方には学校間に多少温度差のあることも指摘されています。

そこで、「スポーツ少年団活動に期待すること」を議題に、皆さんから建設的なご意見を賜りたいと考えて、ご参加をお願いしました。

議題 スポーツ少年団の果たすべき役割と社会的意義について

〔梁瀬〕

スポーツ少年団は、スポーツ活動を中心にしながら広範囲な活動の中で人間形成を図っていくことと、発育途上の子どもの健全育成を図っていくことの二点に尽きるのかなと思っております。具体的に言えば、スポーツには当然ルールがあるわけで、そのルールを守りながらスポーツのフェア精神に則して活動する。そこで、スポーツの特性や楽しさを体験させながら人間形成を図ることを大事にしなが指導に当たっていま



す。まさに、発育途上の子どもは精神的・肉体的な面での発育・発達を踏まえながら指導していくことが非常に大事だと考えております。

日常的に言えば、望ましい生活習慣の形成、発達段階に応じた体力の増進、友達や上級生・下級生と仲良く活動しながら生活のルールを身に付けていくこと、などを目標にしながら活動していくのかなと思います。



一方、指導者の資質向上をどのようにして図っていくかが大きな課題です。スポーツ少年団の認定員養成講習会を二日間の資格取得の講習会に制度改定したことや、再履修・再研修というものがやはり必要なのだと考えます。

〔柴崎〕スポーツを通して得るものは、技術の習得や技能の向上、体力向上、友人関係を築く、ボランティア精神を育む等々、計り知れないほど多くのものがあると思います。

私自身は、スポーツ少年団に入団して仲間と一緒に楽しく活動し、ジュニアリーダー、シニアリーダーとなり、認定員の資格を取って指導者となり、

現在に至っています。単一種目にこだわらずに生涯スポーツにつなげていけない指導者が増えてきているように思います。複合種目を取り入れ、いろんなスポーツを教えて戴きたいと思っています。

議題 スポーツ少年団の指導者として、どのような指導理念や方針を

持つて指導に当たっておられるか

〔佐藤〕子どもたちというのは、地域の宝という意識がありますから、自分たちの町を自慢できるように地域づくりが必要なんだろうと思います。そのためには、地域で子どもたちを教育して、町を自慢できるように大人になってほしいと思います。その手がかりとして、小学生・中学生・高校生を含んだスポーツ少年団の組織づくり、そして、二十歳を過ぎてからもスポーツ少年団に関わったり、地元に戻ってきた指導者もまた子どもたちに関わる。そういうサイクルが町にあったら、自慢できるんじゃないか。

そんな組織をつくりたいと、常々指導者間で話し合っているところですね。



議題 スポーツ少年団に期待すること

や望むことについて

（小川）はじめに、学校教育の分野だけでは教育できない面をスポーツ少年団活動の中で育ててもらっていることに感謝申し上げます。

学校には、スポーツ少年団活動は社会体育分野という意識があるので、理解できないこともあるのではないかと思います。また、指導者や大人の考えでいることと子どものやりたいことに認識のずれがあるのかなと感じています。スポーツ活動を中心にした健全育成や体力向上、発育などを考えるのは大人で、子どもの側に立つと、体力をつけるため少年団に入るというのはなかなかないと思います。楽しさの追求や上手になりたい、友だちになりたいという仲間意識などが入団理由になっているのではないかと思います。子どもから見た視点も大事にしていかなければならないと思います。更に、「これをクリアしたい」「こんなことやってみたいな」というような技術的課題や運動量の確保なども指導者として考えていかなければならないと感じます。



スポーツをやる子どもと

やるらない子ども

もの二極化が進んでいると思います。運動なんか嫌いだなんていうのは、学校教育の中でも是非考えていかなければならない問題だと考えています。少年団活動の中でも、また二極化があると思うんです。一つは、勝ちをすぐ意識して勝たないためだめだというような勝利意識。もう一つは、勝利を抜きにして、和気あいあいの雰囲気を楽しむようなこともあるんじゃないかと思っています。



近隣の学校と手を組んで合同の少年団組織が増えていますが、学校の協力を得て、団員募集をしたり、広報活動することなども必要だと思えます。子どもの視点に立った広報と大人用の広報やパンフレットがあってもいいのではないのでしょうか。

（吉野）スポーツ少年団は、東京オリンピックあたりから広がってきたという流れの中で、少子高齢化を迎え、スポーツ少年団のあり方が非常に大きな曲がり角に来ていると思えます。スポーツ欲求は指導者にも、子どもにもあると

思います。試合や大会の組み方、いわゆるチャンピオンシップ的なゲームの作り方を無作為に作り過ぎた流れがあるのではないかと思われれます。全国的に、地域的に試合に勝つという流れの中で、子どもたちにマイナスの因子が働きつつあるような気が致します。一つのスポーツを何十年もやるみたいな流れがあるんですが、生涯スポーツとしてはどうなんだろうと考えます。いろんなスポーツをやらせるとかもっと子どもと大人の関わりづくりとか、地域と共に歩む指導者が大事なんでしょうかと思えます。

議題 スポーツ少年団活動をする上で、

学校側に期待することや望むことについて

（佐藤）スポ少の創設当初から中学生も加入しましたが、スポ少と中学校の部活動を重複しないように努めています。試合日にはメンバーをどうするかなど学校に連絡して連携を取っています。ただ、子どもの性格や望んでいること、中学校の現況などの情報は伝わってきません。お互いに、子どもの本物の姿を話し合える場がほしいというのが今一番の課題かなと思っています。学校だけ、地域だけ、親だけではなく、地域として子どもたちをどう育てていくかを話し合える場がほしいと思います。

（柴崎）私の住んでいるところでは学校とスポ少の連絡会があつて、体育館やグラウンド使用の確認、スポ少側からの要望などについて情報交換をいたしました。が、そのようなことを行っていない地域もあると聞いています。是非、連絡会などを行ってもらいたいです。



山形県リーダー会はあついで

スポーツ少年団は団員のほとんどが小学生だと思えますが、実は中学生以上も団員として活動できます。そして山形県スポーツ少年団リーダー会とは団員登録をしている県内の高校生から二十一歳までを対象とした、スポーツ少年団活動を楽しみたい、スポーツ大

好きで将来スポーツ指導者を目指している、個々の長所を伸ばしたいという様々な思いを持っていてる人たちが集まった会です。

リーダーは指導者とは区別され、団員の代表者として、指導者と小学生のパイプ役を担います。小学生団員にとって、お兄さん、お姉さんの存在であり、身近な目標となる先輩になります。そのリーダーを育てるために毎年、研修会や交流会が開催されます。

平成十八年には、山形県で第四十四回全国スポーツ少年大会や第十回北海道・東北ブロック研究大会などの大きな大会が開催されました。このような大会では、リーダー会が中心となり、プログラムの企画、会場や物品準備、大会運営を行います。初めての取り組みで戸惑ってしまうことや、大変な仕事もありますが一人一人の頑張りや協力をして大成功に収めることが

できた時の喜びは心に残ります。また、このような大会を通して全国にたくさんの友達ができます。共に笑い、経験し、感動した活動の数々は一生忘れられない思い出となります。心と体、共に成長したリーダーが指導者となっていくのです。

リーダーから指導者になるためにはいくつかのステップがあります。まず、毎年夏に県内中学生を対象に開催されるジュニアリーダースクールに参加するとジュニアリーダーに認定されます。さらに、ジュニアリーダーの資格を持つ、全国の高校生以上を対象に開催されるシニアリーダースクールに参加するとシニアリーダーに認定されます。

このシニアリーダーの資格を取得することにより、ドイツとの交流事業への参加や指導者資格の認定員が得られます。そして、リーダーとして各スポーツ少年団で活動し、将来は自分の単位団で指導者となり団員達を育成指導していくことを目標としています。

リーダー活動は、ただスポーツを楽しむだけではなく、社会活動や文化活動、また、スポーツ少年団事業の運営など様々な能力を養うことができます。さらに、学校や日常生活では味わうことができない体験ができたり、責任感のある仕事を達成したときの充実感を味わうことができます。これらは大きな自信にもなります。

今年度、渡辺瞳、山田都茂美、三上新一郎の三名が七月十九日から八月十一日まで、日独同時交流派遣団員としてドイツに派遣され、大きな自信を得ることができました。最初は不安や緊張でいっぱいですが、スポーツ交流やディスカッション、ホームステイの生活、日常のコミュニケーションを通して不安や緊張は消え、優しい人柄のドイツの方とすぐ仲良くなることができます。他にも言語、宗教、社会環境、学校、地域など様々な日本との違いを肌で感じる事ができます。

三週間の派遣期間での生活を通して自分の成長を感じることが出来ます。自分の視野を広げて人と接したり、自分自身を見つめ直すことができ、自分の持つ考えや言動に責任を持って行動できるようになります。

山形県スポーツ少年団リーダー会は今までの経験や、今までに得た力を今後の活動や日々の生活にも生かして成長し続けたいと思います。

県内にはジュニア、シニアリーダーの資格を持った人がまだ少なく、もっと多くの団からリーダーを目指す中学生、高校生が増えることを願っています。ぜひ私たちとリーダー会で活動してみませんか？入会の手続きや問い合わせは県の事務局までよろしくお願ひします。

山形県スポーツ少年団 普及委員会
廣川 由香

市町村の動き

新庄市スポーツ少年団本部 本部長
柏倉 政男

新庄市スポーツ少年団は、発足から四十年が経過しました。市内で最初に結成された沼田バドミントンスポ少を筆頭に、現在、三十四団体が登録しています。ここ十数年は単位団数に大きな変動はありませんが、単位団によって団員数にばらつきがあり、少子化の影響からか、平成八年度に登録団員数が千人を超えたのを境に年々減少してきています。その為、試合に勝つためだけの勝利至上主義ではなく、スポーツの楽しさが味わえるようなプログラム、他チームとの交流、団活動を通じて社会的マナーを学ぶなど、各単位団ともに趣向を凝らした活動を展開し、団員の確保に力を入れているところであります。また、少年団活動を陰で支える保護者と、直接指導に携わる指導者が連携して子どもたちの健全育成に貢献できるように、サポートにも力を入れていきたいと考えています。

先日亡くなられた前市長の高橋榮一郎氏は「スポーツ市長」としても有名で、長年、スポーツ活動の振興と発展に尽力されました。山尾順紀新市長も自身が国体に出場し活躍した経歴を持つことから、スポーツ及び少年団活動に対する理解度はかなりのものと期待し、行政との連携を図ってスポーツ人口の底辺拡大に努めたいと考えます。

単位団紹介

河北柔道スポーツ少年団

代表指導者 奥山 敏夫

河北柔道スポーツ少年団は、今年で三十一年目を迎えました。団のスローガンは、『柔道を頑張つて、心身ともに健康でたくましい団員になろう。』です。

①「仲良く」 町内六つの小学校から集まってくるので、全員が集まる月曜日は、最初の三十分はまず遊びから始まります。お互いの名前を知って、仲良くすることが原点です。

②「楽しく」 柔道は、おっかない、危ないという意識があるかもしれませんが、そこで、基本練習をていねいに繰り返して、白帯をしている初心者を中心に、白帯をしていない初心者を大事にする約束で、練習に取り組んでいます。柔道をやった良かったと言われることが、一番のうれしいことです。

③「あきらめず」 二人で向かい合って取り組む種目ですから、逃げ出すことはできません。自分が、最後まで頑張らなければいけません。これは、何事にも共通します。挑戦する心・向上しようとする心を、ぜひ育てたいと考えています。

平成五年度に、文部大臣表彰を受賞した重みをかみしめながら、「夢」を大事に指導をしています。



真室川バドミントンスポーツ少年団

代表指導者 中川 昭弘

町内のバドミントン愛好会が中心となり、今年4月から、活動を始めたばかりの「真室川バドミントンスポーツ少年団」です。

以前から、中高生を中心に、バドミントン競技が盛んな土地柄でしたが、ジュニア育成の組織がありませんでした。そんな中、愛好会会員から、「子供たちにバドミントンを教えたい」という声が上ががり、スポーツ少年団設立に向けた機運が一気に高まり、今年設立の運びとなりました。

現在、真室川小学校児童を中心に団員が十名、指導者二名の小さな団体ですが、小学校体育館・町民体育館を拠点に、週二回の活動を実施しております。

活動の主な目的は、「スポーツを通して青少年の教育の場」とし、団員個々の「競技力の向上、心身の鍛練、体力の強化」はもとより、「他団体との交流」や「地域のボランティア活動」に積極的に参加し、「豊かに思いやりがあり、健康的な良き社会人づくり」を目指しています。

今後は、指導者の養成や育成母集団の拡充を図るとともに、「子供達の健全育成」に向けて、より一層頑張っていきます。



天元台ジュニアレーシングスキースポーツ少年団

代表指導者 佐藤 正人

天元台ジュニアレーシングスキースポーツ少年団は、昭和六十三年に発足し、今年二十年を迎えました。地元米沢市を中心に、三十人のスキーの大好きな子ども達が集い、日々トレーニングに汗を流しています。

「スキーを通して、人間形成を図る」という指導理念のもと、スキーにおいても人生においても経験豊かな指導スタッフ、子ども達の健やかな成長を願って、指導にあたっています。

雪が降ると、天元台スキー場でスキーをします。そして、各地の大会に参加して、力試しをしています。雪が解けると、今度はグラススキーに履き替えて、グラススキーのトレーニングに入ります。夏休みになると自転車の朝練習が始まり、夏休み明けには酒田まで走る「ツール・ド・酒田」に挑戦します。週三日は体育館を使って様々な運動に取り組み、スキーが上手になるための「心と体と技」を鍛えています。

雪国に生まれた子ども達が、スキーが大好きになるように、スキーを通して人間形成を図ることができるよう、これからは保護者や地域の方たちと力を合わせて活動していきたいと思えます。



城北わくわくスポーツ少年団

代表指導者 平賀振一郎

「親子いっしょに、いろいろなスポーツを楽しもう！」をスローガンに、鶴岡市立朝陽第三小学校の二、三年生の子どもたちを対象に活動しています。

活動の内容は月ごとに変わり、メインの種目として、サッカー、ミニバスケットボール、バドミントン、バレーボール、卓球、剣道などを行っています。また、竹馬、一輪車、鬼ごっこ、なわとび、マット運動などの遊びも取り入れています。さらに、登山やハイキング、さつまいも掘りや栗拾いなどの体験活動も行っています。

本団の最大の特徴は、一年間でいろいろなスポーツを、親子がいっしょになつて体験することです。子どもにとっては、いろいろな運動の特性に触れることにより、このスポーツはこんなところが面白いんだということを、身をもって体験することが出来ます。また、親にとつては、親子のふれあいを深めながら、わが子がどんな運動に興味を持ち、どのような運動能力を持っているのかを知ることが出来ます。本団は、今年で結成十四年目を迎え、毎年三十人前後の団員が入団しています。今後とも、他の単位団との連携を深めながら、運動好きで、将来にわたつて運動に親しもうとする子ども達の育成をめざしていきます。



団員の夢

私とバレーボール



西川バレー
スポーツ少年団
伊藤佳那

私がバレーボールを初めたのは、三年生の時です。姉がスポ少に入ってから練習に行くのについて行って、「楽しそうだな。」と思って、入団しました。最初は、訳も分からず、ただボールを追いかけて行くだけでしたが、練習していくうちに、「試合に出たい。」という気持ちも湧いてきました。

今、六年生になり、キャプテンとして、チームをまとめています。そしてセッターとしてスパイクしています。私には、すぐくうれいしです。私たちのコーチは、バレーを楽しむことから教えてくれました。最初のころは、「ボールと仲良くなれ。」と言われてました。そんな、バレーの楽しさを教えてくださったり、いろいろな技術を教えていただきました。本当に感謝しています。そして、お父さんお母さんありがとうございます。

これから私は、中学生になります。中学校に行っても、バレー部に入ってバレーを続けたいと思います。バックコートやネットぎわのボールさばき、ジャンプトスなど、まだまだ出来ない事もいっぱいあるけれど、一つ一つ学んで、中学校に行ってもレギュラーになりたいです。



富長バレー
少女バレー部
山科梨沙

私がバレーボールを始めたのは、三

年生の時です。学校の先ばい達が、休み時間にバレーボールをやっている姿をみて、「かっこいいな。」と思って入ることを決めました。三年生の時、私は初めての新人戦にでました。あの時の緊張は今もわすれられないほどの緊張でした。その試合は負けました。でも先ばい達の勝つた試合をみて、先ばい達のようにうまくなりたい。私はそういう気持ちになりました。

四年生、五年生と一回も試合には勝てませんでした。本当に一つ一つの試合の後はくたくたくしてかたがありませんでした。それから、全日本とかの試合をたくさんみて勉強しました。今でもビデオを録画して見ます。

六年生の時、私はキャプテンになりました。今まではちがう責任を感じました。練習でもレシーブがあがらなかつたりして、自分がへたくそだと思つたら自然に涙があふれてきました。でも泣いてもうまくならな

私はずっと練習していききたい！



舟形WINGS
治部美里

私たちは「ウイングファイア！」というかけ声でコートにでます。

私は試合中に気をつけたいことが二つあります。一つ目、試合を盛り上げる事です。でもまだまだ声かけは全然足りな

なつてしまつたので自分を落ちこませないように気をつけています。それに私が落ちこむとチーム全体のふんいきが悪くなるからです。今年の大会では、表彰状をもらつたので、今年最後の大会「冬季大会」にかけたいと思います。

でも私がこんなふうになれるのは、支えてもらっている人がいるからだと思います。まず、お父さん、お母さん。おくつてもらおう、おばあちゃん。「うでいてえ〜」といいな



わかさ
サッカースポ少
鈴木拓弥

このことを忘れずに、最後の冬季大会で賞状をもらえるようにしたいです。中学校でもバレーを続けて、もっともつとがんばっていききたいです。

ぼくは、サッカースポ少に三年生の時に入りました。入ったときだけは、テレビでサッカーの試合を見て、とてもかっこいい、と思い入りました。最初は、上級生の人の試合を見たりして

練習を一回も休まないで行き、他の人よりも早く行って、グラウンドを走り回り、シュート練習をしたりしました。それから、少しずつ、勝てるようになって、チームワークもよくなり、キャプテンとして、少しずつ、自信がついてきました。サッカーは、一人のプレーだけでなく、十一人の気持ち

を学びました。そのために、キャプテンとして、みんなをまとめることの大切さを学びました。六年生は、もう少



羽田ミント
スポーツ少年団
高山斗希

私は、幼稚園のころ、遊びで、バドミントンをやっていました。小学校に入

私の先ばいは、毎年全国大会に出場してました。ダブルスもシングルも強い先ばいは私の目標です。私は、ダブルスで県の大会で二位になって東北大会に行つたけど、二回戦目で負け

で、そう簡単には勝てません。もっと練習をして強い人にも勝てるように。そして、小学校での試合が終わるからと、終わりにしないで、中学校に向

大空に翔る

第15回山形県少年少女スポーツ交流大会 開催種目 会場 参加者数 一覧

No.	種目	開催期日	会場	参加者数	No.	種目	開催期日	会場	参加者数
1	柔道	10月7日	山形県体育館主競技場	315	6	バレーボール	10月7日	上山市体育文化センター 上山市立南小学校	509
2	剣道	10月7日	東根市民体育館	508	7	卓球	9月30日	鶴岡市小真木原総合体育館	246
3	バスケットボール	9月30日	鶴岡市緑高体育館	885	8	バドミントン	9月23日	米沢市営体育館	271
			鶴岡市羽黒体育館		9	ソフトボール	10月6日	山形県総合運動公園運動広場	121
			鶴岡市柳町スポーツセンター		10	ソフトテニス	10月6日	酒田市国体記念テニスコート 酒田市光ヶ丘テニスコート	345
			酒田市国体記念体育館 酒田市八幡体育館		11	陸上競技	10月6日	あかねヶ丘陸上競技場	509
4	サッカー	10月7日	山形県総合運動公園 サッカー場・ラグビー場・第2運動広場	429	12	体操	10月7日	山形県総合運動公園総合体育館	110
		10月14日	長井市立長井中学校グラウンド		13	空手道	10月7日	山形県立天童高等学校体育館	212
5	軟式野球	10月6日	寒河江市若球場	345	14	レスリング	10月7日	山形県立山形高等学校レスリング場	47
			サンスポーツランド河北 チャリランド河川敷グラウンド 大江町民野球場		15	相撲	10月6日	鶴岡市小真木原相撲場	56
				合計					4,987

「べにばな国体」開催を記念した山形県少年少女スポーツ交流大会は今年で第一五回目を数え、十月七日を主会期に、県内各地区二六会場において一六種目、四、九八七名の参加を得て開催した。

県少年少女スポーツ交流大会

第34回日独スポーツ少年団同時交流ドイツ団受入日程

時間/月日	7月30日(月)	7月31日(火)	8月1日(水)	8月2日(木)	8月3日(金)	8月4日(土)	8月5日(日)
7:00	5:00 鶴岡市夜宵集合 鶴岡市出発	6:00 起床・清掃 7:30 朝食	朝食 各家庭より移動 8:30 朝陽武道館集合	朝食 各家庭より移動 8:30 朝陽武道館集合	朝食 各家庭より移動 8:30 朝陽武道館集合	朝食 各家庭より移動 8:30 朝陽武道館集合	6:00 起床・清掃 7:30 朝食(断内食) 8:30 入所式(歓迎式) 9:30 金峰少年自然の家出発
8:00	9:40 福島県に到着 9:30 福島県出発	8:00 金峰少年自然の家出発 8:30 市学舎本大会志願 (鶴岡市市民ホール)	8:30 朝陽武道館解散 9:30~12:30 羽黒山石段登り 昼食・休憩 昼食(屋上バーベキュー) 12:58 移動	9:00~12:30 山良海濱いかだ体験 海遊び シャワー・着替え	10:00 月山八台目散策	10:00 荷物を持って各家庭より移動 9:30 小真木原野球場集合 10:00~ 県民の海スプールで遊泳	
9:00		10:00 鶴岡公園周遊散策					
10:00		12:00 昼食(百ヶ尾郷)					
11:00		13:00 鉄道博物館見学					
12:00							
13:00	昼食 (寒河江サービスエリア)						
14:00	14:30 金峰少年自然の家到着 15:00 入所式(歓迎式) オリエンテーション	14:30 鶴岡市長表敬訪問 15:00~17:00 鶴岡北高見学・交流 (茶道・剣道体験)	14:00~15:00 飯上川舟下り 飯上川さみだれ大塚見学	13:00 昼食(加茂水産館) 水族館見学	12:30 昼食 (シンギズオン) 14:30 プルベローもぎ取り (餅木農園)	12:00~13:00 昼食 (陸上競技場) スポーツ観戦 (月山牧場) サッカー、野球)	
15:00		18:30~20:30 東京第一ホテル鶴岡での歓迎夕食会	17:00 朝陽武道館解散 ホームステイ先へ移動	16:50 富士酒造見学	16:30 ショッピング (庄内観光物産館)	15:00 金峰少年自然の家へ移動 16:15~ ホストファミリーとのさよなら夕食交流会 (バイン広場)	
16:00		20:30~ ホームステイ先へ移動		18:00 朝陽武道館解散 ホームステイ先へ夕食	18:00 朝陽武道館解散 ホームステイ先へ夕食	19:00 後片付け	
17:00							
18:00	17:30 夕食 18:10 入浴						
19:00							
20:00							
21:00	20:15~21:30 星空を見る会						
22:00	22:00 就寝						
注	全峰少年自然の家	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	ホームステイ	金峰少年自然の家 宮城県利府町

七月三〇日〜八月五日 庄内支部

日独同時交流 受入

三月四日、山形県スポーツ会館において六八名が参加して開催されました。研修会に先立ち、山形県スポーツ少年団表彰式・日本スポーツ少年団顕彰感謝状伝達式を行い、研修会では、日本ス

市町村スポーツ安全協会研修会

十一月四日、山形国際交流プラザにおいて、八八名が参加して開催されました。研修会に先立ち、日本スポーツ少年団顕彰伝達式を行い、研修会では、JOC情報・医・科学、ゴールドプラ専門委員会副委員長を務める仙台大教授勝田隆氏より「山形県の少年スポーツの今後」と題し、大人と子ども

- ### ホームステイ先の紹介
- 長南 周太 (稲穂サッカースポ少) パステイアン ベルニツヒ (団長)
 - 本間 智子 (稲穂サッカースポ少) ピア ガルシユカ
 - 齋藤ひかる (稲穂サッカースポ少) クララー ガルシユカ
 - 早坂 梨羽 (鶴岡ジュニア体操スポ少) ヤーナ リホフスキー
 - 五十嵐洗人 (稲穂サッカースポ少) アレキサンダー シュヴァイクハルト
 - 鈴木 桃佳 (朝陽剣道スポ少) アニャ カリーナ ラング
 - 佐藤 徳太郎 (城北剣道スポ少) アドリアン ラング
 - 八幡 日向 (鳴光卓球スポ少) ルーカス アーベル
 - 斎藤 葉 (城北バレーボールスポ少) ズザンネ メルバー
- 通訳 石坂裕美子

県指導者研修会兼育成母体同研修会

スポーツ少年団認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会

地区/コース名	期	日	会場	受講者	修了者	出席者
村山(東渡)	12月1日(日)~2日(月)		山形県スポーツ文化センター	67	23	44
村山(西)	12月8日(日)~9日(月)		寒河江市文化センター	52	19	33
村山(北)	11月17日(日)~18日(月)		東根市民体育館	71	15	56
郡上	11月10日(日)~11日(月)		あくわく館	45	17	27
郡山	12月1日(日)~2日(月)		鶴岡市体育館	56	28	27
庄内(田川)	12月15日(日)~16日(月)		鶴岡市羽黒センター羽黒体育館	65	28	37
庄内(陸奥)	11月17日(日)~18日(月)		酒田市武道館	68	35	33
合計				424	165	257

「認定員」資格を認定された指導者に対しては、「(財)日本体育協会公認「スポーツリーダー」」資格も与えられます。今年度の参加者四二四名の内、一六五名を認定し、二五七名を保留した。なお、保留者については、二〇年度登録することにより認定されます。

日本スポーツ少年団指導者制度が変わり二年目、七会場で開催しました。自宅学習二一時間、集合講習一科目一四時間の講習後に検定試験を実施。また、この認定員講習会を修了し、

認定員養成講習会

スポーツ指導者協議会運営委員・山形県スポーツ少年団副本部長 坂田喜一郎氏より、「スポーツの面白みとは」について講義をいた。だき研修を深めました。

県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰受賞者
(市区町村表彰)南陽市スポーツ少年団
(表彰指導者)齋藤武司(山市)、渡部利
七(高島町)、梁瀬吉弘(酒田市)
(感謝状退任指導者)佐藤克則(鮭川村)、
大河原寛、大渡朝生(米沢市)、竹田忠晃
(川西町)

山形県スポーツ少年団表彰受賞者

(優良団)西小けやきミニバスケット
ボールスポーツ少年団(山形市)、洗心館
高橋柔道スポーツ少年団(天童市)、河北
FCサッカースポーツ少年団(河北町)、
楯岡サッカースポーツ少年団(村山市)、
ミックスピッキーズスポーツ少年団(新
庄市)、犬山地区マラソンスポーツ少年
団(川西町)、鮎貝野球スポーツ少年団
(白鷹町)、朝日サッカースポーツ少年団
(鶴岡市)、大山パドミントンスポーツ少
年団(鶴岡市)、峰栄ミニバスケットボー
ルスポーツ少年団(鶴岡市)

(功労者)鈴木義則(山形市)、加藤芳雄
(山市)、渡辺将二(寒河江市)、千葉徹
(東根市)、村上進(新庄市)、猪狩文昭(鶴
岡市)、安部行雄(長井市)、我孫子廣(鶴
岡市)、岡部裕司(鶴岡市)、相馬春夫(酒
田市)

各級スポーツ少年団資格取得者

○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養
成講習会 七コース開催
参加者四二四名(内一六五名認定)

各種事業

○指導者全国研究大会
六月二十四日 東京都 十七名参加
○日独同時交流派遣
七月二十〜八月十一日
渡辺 瞳(寒河江市)、山田都茂美(白鷹
町)、三上新一郎(長井市)
○全国スポーツ少年大会
七月二十八〜三十一日 熊本県
(指導者)荒川由美(新庄市)、(団員)八幡
時弥、遠藤雄介、富樫美穂、山本将大、安

藤慎悟(鶴岡市)、荒川菜々美(新庄市)、
高橋千穂、石山幸奈(寒河江市)
○シニアリーダースクール
八月九〜十三日 静岡県
佐藤 圭、井上侑香(山辺町)、荒井夏実
(米沢市)、山本将大(鶴岡市)

○全国リーダー連絡会
九月一〜二日 東京都
(指導者)上野和義(鶴岡市)、(リーダー)
山田都茂美、工藤直美(白鷹町)
○東北ブロックスポーツ少年大会
八月二〜五日 宮城県
(指導者)小南達也(鶴岡市)、(団員)今野
宇将、多田誠弥、榎木裕輔、茂木諒太、日
下部翔一、難波 杏、佐々木望(鶴岡市)、
峯田清人(山辺町)

○北海道・東北ブロックリーダー研究大会
十月六〜八日 宮城県
(指導者)遠藤啓一(寒河江市)、上野和義
(鶴岡市)、(リーダー)山田都茂美、工藤直
美(白鷹町)、三上新一郎(長井市)、佐藤
圭、井上侑香(中山町)

全国スポーツ少年団競技別交流大会

【サッカー】(第三十一回)八月四〜十一日
福島県・東京都 山形ジュニアFC(山
形市)「バレーボール」三月二十六〜二十
九日 新潟県 神田エンジエルスバ
レーボール(戸沢村)【剣道】三月二十
六〜二十八日 静岡県 大泉剣道、朝陽
剣道(鶴岡市)

東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

【軟式野球】七月七日 宮城県 寒南ガツ
ツ(寒河江市)【サッカー】七月二十七〜二
十九日 福島県 うめはちサッカー、O
SAFオルトナ山形フットボールクラ
ブ(山形市)、天童中部サッカー(天童市)
【柔道】十一月二十四〜二十五日 山形
県 大道館、高橋道場(山形市)、新庄地
区柔剣道練成会(新庄市)、三川柔道(三
川町)、朝陽武道館柔道(鶴岡市)、村山河
西柔道(村山市)、沖郷柔道(南陽市)、東
根市柔道教室(東根市)、戸沢道場柔友会
(戸沢村)、山辺柔道(山辺町)、金山町柔
道(金山町)【ミニバスケットボール】三月

一〜二日 岩手県 ほなみミニバス
ケットボール、西小けやきミニバスケッ
トボール、滝山ミニバスケットボール
(山形市)、月岡ミニバスケットボール
(山市)、ミックスピッキーズ(新庄市)、
楯引ミニバスケットボール女子(鶴岡
市)

○県スポーツ少年大会兼ジュニアリーダ
ースクール
七月二十七〜二十九日神室少年自然の
家にて開催。十六名の団員をジュニア
リーダーとして認定。少年大会の部三十
名の団員、指導者五名参加

○日独同時交流受入
七月三十〜八月五日 庄内支部
○県少年少女スポーツ交流大会
九月二十三・二十四・二十五日
県内各地二十五会場 十六種目四、九八
七名参加

県指導者研修会兼育成母集団研修会

十一月四日 山形市 指導者 育成母集
団関係者八十八名参加

編集後記

本年度の団員登録者数は、前年度より、〇〇〇名
近く減少しましたが、児童生徒数の減少から考えると、
加入率は横ばい状態にあると考えられます。
近年、少子化の影響で単一校で適正な団員数を確
保して活動することができず、近隣の数校から団員
を募集して、クラブ型の組織体制づくりを目指すス
ポーツ少年団の育成が増加傾向にあります。
こんな中、「スポーツ少年団」に対する学校の関わり
方に学校間に温度差がある等、学校とスポーツ少
の情報交換や連携強化等のあり方が話題になり、今回
「スポーツ少年団」に期待すること」というテーマで座
談会を開催しました。
スポーツの理念を踏まえた指導のあり方、団員の視
点に立った指導のあり方、指導者の資質向上と後継
指導者の育成、スポーツと学校側との情報交換等々、
が話題になりました。
最後に、原稿写真等を狭くお寄せ戴きました方々
に、編集者一同心より感謝とお礼を申し上げます。

編集委員

- 委員長 志村 忠夫
副委員長 安野 重幸
委員 齋藤 武司、本間 清治、柴崎 美枝
高橋 真、菅井 新、上野 泰弘
伊藤 基子、佐藤 俊次、齋藤 望
廣川 由香、須崎 智志、柴崎 啓一

スポーツ安全保険
小さな掛金・大きな補償
対象となる事故
★グループ活動中の事故
★往復中の事故
(5名以上の団体でご加入ください)
お問い合わせ
〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321
財団法人 スポーツ安全協会山形県支部
(山形県体育協会内)